

地域・産業

農業支え 共に育つ

茨城県つくば市の「じきげんファーム」では、家庭向け有機野菜セットの生産に精神障がい者らが励む。伊藤文弥代表(30)は「地域に必要とされる存在に」と力を込める。

利用者から正職員に

農場は2011年設立のNPO法人「つくばアグリチャレンジ」が運営する。筑波大生だった伊藤代表は、地元市議のインターンシップに参加する中で、耕作放棄地の増加と障がい者の働く場所の確保という二つの課題に直面。解決法を探った結果、就職活動はせずに法人を立ち上げた。

その一人だった益考生さん(36)。以前は入退院するなど不安定な生活だったが、農業の楽しさに目覚め、ついには正規の職員として採用された。野菜が自分の子のように感じる」と魅力を語り、「仲間と一緒に仕事できるのがいい」とほほえんだ。

必要とされる存在 野菜宅配で地域貢献



「つくばアグリチャレンジ」の伊藤文弥代表(右から3人目)と農場で働く人たち=2018年11月1日、茨城県つくば市

茨城県つくば市



収穫祭で行われる野菜の販売=2018年11月10日、茨城県つくば市



収穫祭の参加者らと「つくばアグリチャレンジ」の伊藤文弥代表(中央)=2018年11月10日、茨城県つくば市

住民との接点増やす

11月中旬に開かれた収穫祭。

家族連れなど約300人が訪れ、取れたて野菜の鍋や天ぷらを頬張った。野菜の宅配を利用する福田咲子さん(37)は「味が濃くておいしいし、働く姿を見えるのもいい」と話す。

会場にはファームの卒業生の姿もあった。脳梗塞で車い生生活となつた大河原康代さん(49)。3年間、選別などに従事したことで「私にもできること

があると希望が湧いた」。後遺症でこわばついた指も動くようになり、現在はパソコンを扱う事務職として働く。

ファームで一番大切にしていることは「地域との関係づくり」。地元イベントへの参加や、低料金の体験農園を提供することなどで接点を増やしてきた。

「障がいのある人が地域で当たり前に暮らし、働けるようにしたい」と伊藤代表。収穫祭で住民から声を掛けられたたび、その手応えを感じていた。

謹んで新春のお慶びを申し上げます

平成31年



茅野市建

茅野市環境局

茅野市社会福祉法人

「誰もが安心して心豊かに暮らす社会」の観光主

茅野市農業

茅野市教委

茅野市

茅野市

八ヶ岳の自然、人、技
やしさと活力ある